長岡税務署管内税務団体連絡協議会長賞　優秀

税のあり方とその意味

新潟県立長岡大手高等学校
三年　遠藤　叶美

まず税は普段からわかるように物を買う時国に消費税を払っています。消費税が一番小さな子どもから知られているものです。大人になり働きはじめると、個人に対してかかる所得税、住民税を納めるようになります。これらのお金は、国や地方公共団体が行う福祉の公共サービスや、公共施設に使われ、私達が豊かに安全に生活できるよう支えてくれています。近くにある公園で子供が伸び伸びと安全に遊ぶ姿が見られるのも学校に通うことができるのも税の支えがあるからです。自然災害が起こった時などの公共サービス、普段の私達のゴミの処理、病院に行ってもそこまで高く払わなくて済むなど、私達の健康、住む環境の改善までも支えてくれているのです。日本人みんなが学校に行って小学校最低限の勉強をさせてもらえる環境があり、教科書配布、全国学力調査の実施、スポーツにも力を入れています。それもすべて国の税金が私達を豊かに育てて行く環境づくりにもつながっているのです。

例として、実際メキシコに一年留学してきて思ったことがあります。大半の人は学校に行くことができるが、教育上その環境があまりよくない。教科書は自分達で買わなければならないし、スポーツをする環境もあまり整っていない。道端でホームレスがたくさん居て病院に行けない人もたくさんいる。それを見て日本は小さい頃から環境がつくられていて子供達を伸び伸びと成長させられる育てていく環境がある。これも元をたどれば税金が支えてくれてることもたくさんある。だからこれからの将来、生まれてくる子供達のためにも税金を納めることは大切だと思う。

その一方、私達の納めた税金は財務省で予算案を作成し、閣議決定されたあと内閣によって国会に提出され国会での審議を経て決められてる。しかし実際、歳出が税収などを上まわる財政赤字が続いており、将来世代の負担となる借金もあるのです。私達の納めた税は国の収入、私の生活や健康面、教育面たくさんの所で支えているのはとても幸せなことだ。しかし借金をこのまま増やしていけばいくほど人々の生活もどんどん苦しくなってくるだろう。国会での税金の使い道についての審議では、本当に今必要かどうかその後のことも良く考えて、利用していかなければならない。

私達は国という団体で人々と支え合って生きてる以上、税金は払うべきだと思うし、それによって形をかえて私達に影響し、豊かに人間を育てる環境づくりの土台でなければならないものだと私は思う。